

京都大学と河合塾による高校2年生4万人
「学校と社会をつなぐ調査」の結果

調査・分析担当者

知念歩（大阪大学大学院人間科学研究科）

「学校と社会をつなぐ調査」概要

目的: 高校2年生から約10年の追跡調査をおこない、学校での学習や日常生活の過ごし方が、大学での学びや社会に出てからの仕事や人生の過ごし方にどのような影響を及ぼすかを検討する。

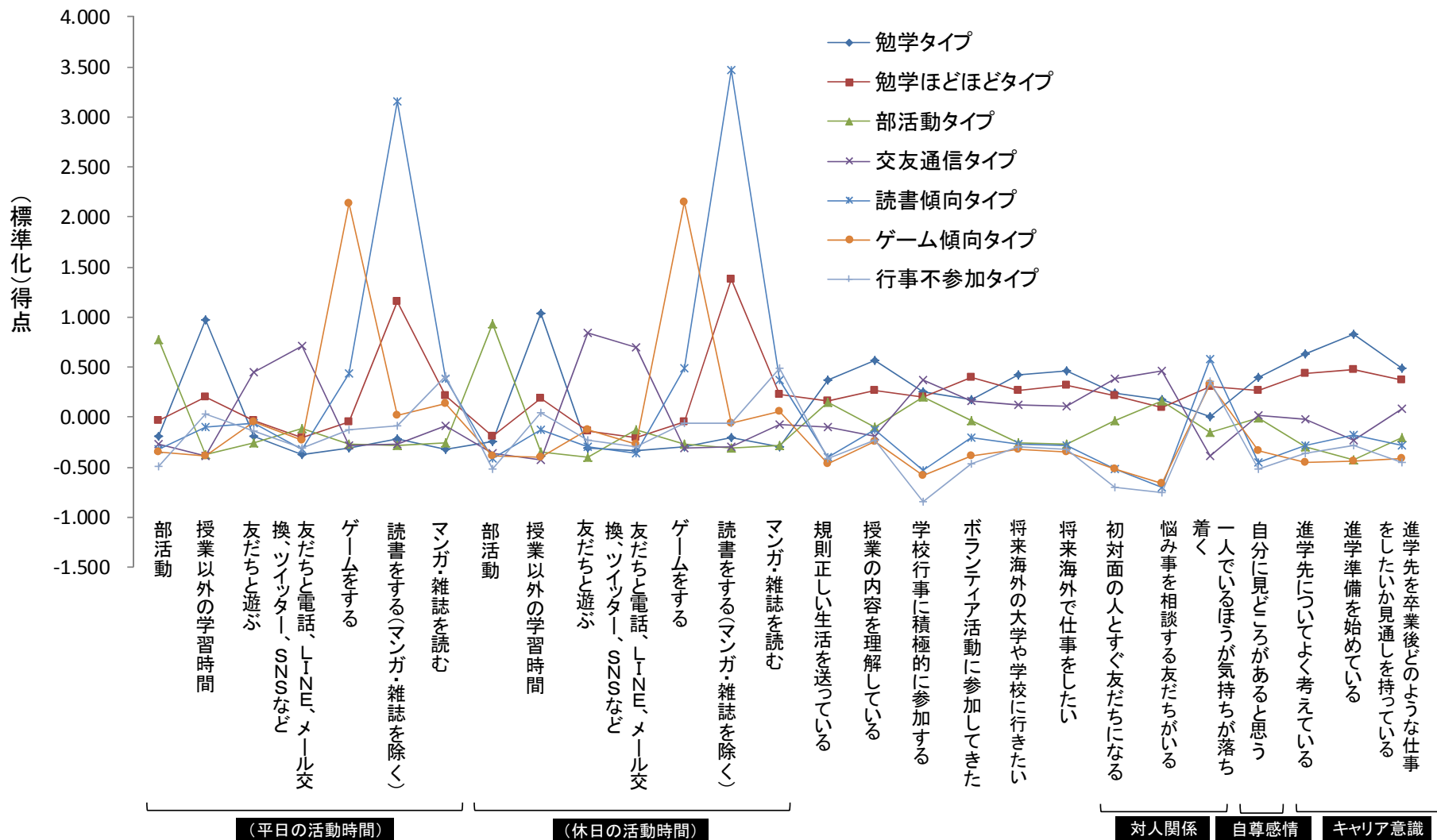
実施概要: 大学進学率約7-8割以上の高校(河合塾の資料より全国約1,500校の生徒を対象)を調査対象の母集団として設定し、全国都道府県の教育委員会、高校に協力を要請して実施。教室での配布、インターネット、郵送等で、165,687名の高校生に調査票への回答を求め、結果、45,311名が回答(27.6%回答率)。

調査実施の流れ:



生徒タイプの分析

図 高校生の7タイプ



クラスタ分析(K-means法)

高校2年生の日常の活動時間、行事参加、対人関係等から 7タイプに分類可能

高校生タイプ	男子	女子	全体
1. 勉学タイプ(授業外学習時間が顕著)	22.5	27.9	25.1
2. 勉学そこそこタイプ(授業外学習も多いが、そこそこに他の活動もしている)	7.7	7.8	7.8
3. 部活動タイプ(部活動時間が顕著)	28.9	26.0	27.3
4. 交友通信タイプ(友だちと遊ぶ、電話、メール、SNSなどの時間が顕著)	9.7	22.0	16.1
5. 読書傾向タイプ(マンガ、雑誌以外の読書時間が顕著)	3.0	1.5	2.2
6. ゲーム傾向タイプ(1人でゲームする時間が顕著)	12.7	2.1	7.3
7. 行事不参加タイプ(上記の活動だけでなく、学校行事にも参加しない)	15.5	12.6	14.1

*全体には性を答えたくないと回答した者を含む

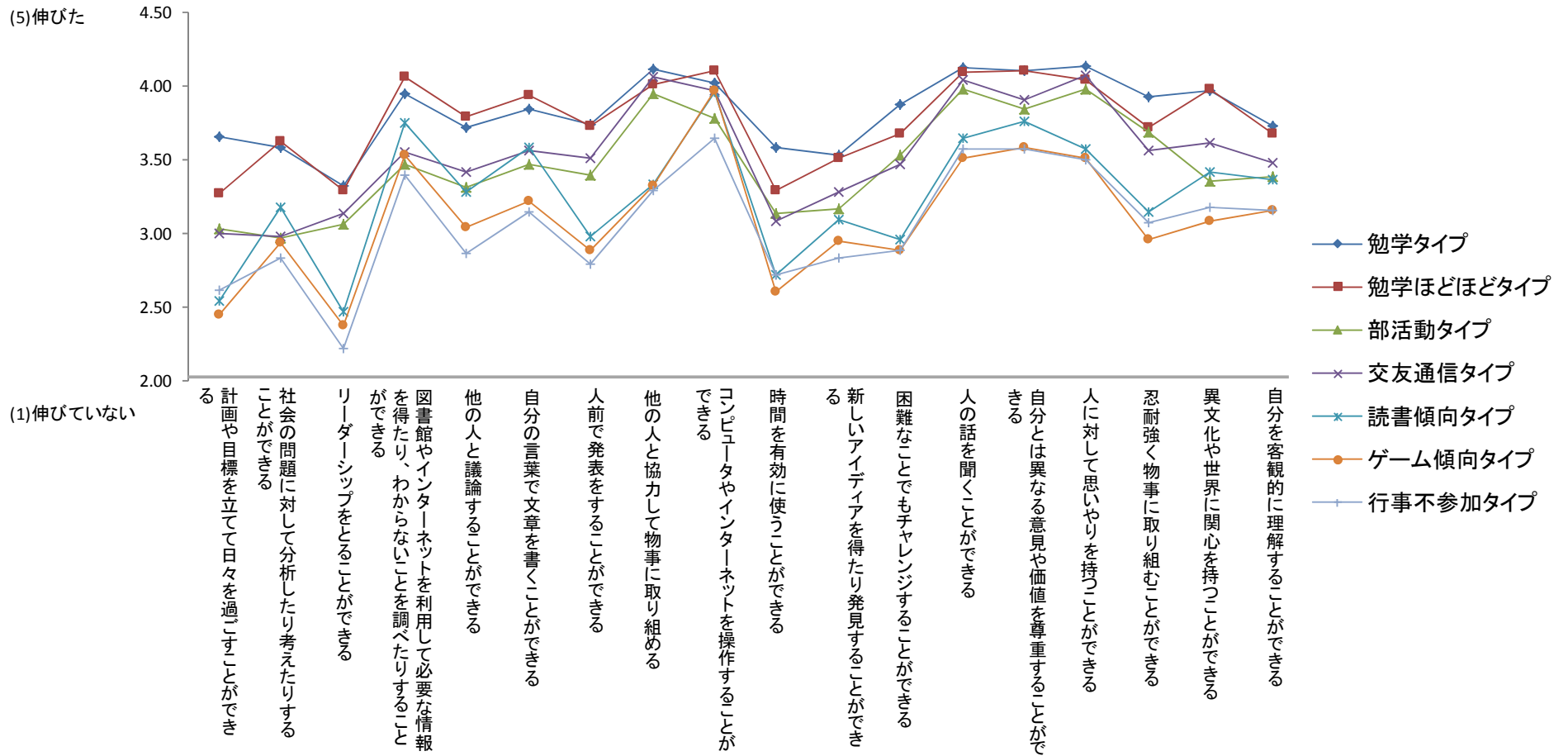


図 生徒タイプと技能・態度の伸びとの関連

高校現場では部活との両立が重要だと言うが、基本は「勉学」！ そのうえで、勉学タイプの部活動両立はやはり最強！

生徒タイプ	部活動と学習との両立	両立タイプ	該当数(%)	分析対象 (5%以上の該当率)	授業以外の 学習時間 (平日)	授業以外の 学習時間 (休日)
勉学タイプ	両立できている	1	5,536 (16.1)	★	2.64	4.37
勉学タイプ	両立できていない	2	1,172 (3.4)		2.54	4.07
勉学タイプ	部活動をしていない	3	1,984 (5.8)	★	3.09	5.00
勉学そこそこタイプ	両立できている	4	1,646 (4.8)		1.85	2.80
勉学そこそこタイプ	両立できていない	5	547 (1.6)		1.69	2.62
勉学そこそこタイプ	部活動をしていない	6	489 (1.4)		2.03	3.15
部活動タイプ	両立できている	7	5,078 (14.8)	★	1.29	1.92
部活動タイプ	両立できていない	8	4,276 (12.4)	★	1.10	1.69
部活動タイプ	部活動をしていない	9	0 (0.0)		-	-
交友通信タイプ	両立できている	10	2,381 (6.9)	★	1.25	1.77
交友通信タイプ	両立できていない	11	1,527 (4.4)		1.05	1.49
交友通信タイプ	部活動をしていない	12	1,573 (4.6)		1.20	1.62
読書傾向タイプ	両立できている	13	313 (0.9)		1.56	2.31
読書傾向タイプ	両立できていない	14	226 (0.7)		1.27	1.94
読書傾向タイプ	部活動をしていない	15	233 (0.7)		1.67	2.36
ゲーム傾向タイプ	両立できている	16	822 (2.4)		1.25	1.86
ゲーム傾向タイプ	両立できていない	17	814 (2.4)		1.01	1.44
ゲーム傾向タイプ	部活動をしていない	18	880 (2.6)		1.28	1.77
行事不参加タイプ	両立できている	19	1,812 (5.3)	★	1.72	2.67
行事不参加タイプ	両立できていない	20	1,295 (3.8)		1.49	2.26
行事不参加タイプ	部活動をしていない	21	1,762 (5.1)	★	1.74	2.66
		全体	34,366 (100.0)			

*分析では、両立している(1 or 2)、両立していない(3 or 4)、部活動をしていない(5)にまとめている。

質問

部活動と学習とを両立させることができますか。

(1) できている (2) まあまあできている (3) あまりできていない (4) できていない (5) 部活動はやっていない

(5)伸びた

4.50
4.00
3.50
3.00
2.50
2.00

(1)伸びていない

自分を客観的に理解することができる

異文化や世界に関心を持つことができる

忍耐強く物事に取り組むことができる

人に対して思いやりを持つことができる

自分とは異なる意見や価値を尊重することができる

人の話を聞くことができる

困難なことでもチャレンジすることができる

新しいアイデアを得たり発見することができる

時間を有効に使うことができる

コンピュータやインターネットを操作することができる

他の人と協力して物事に取り組める

人前で発表をすることができる

自分の言葉で文章を書くことができる

他の人と議論することができる

図書館やインターネットを利用して必要な情報を得たり、わからないことを調べたりすることができる

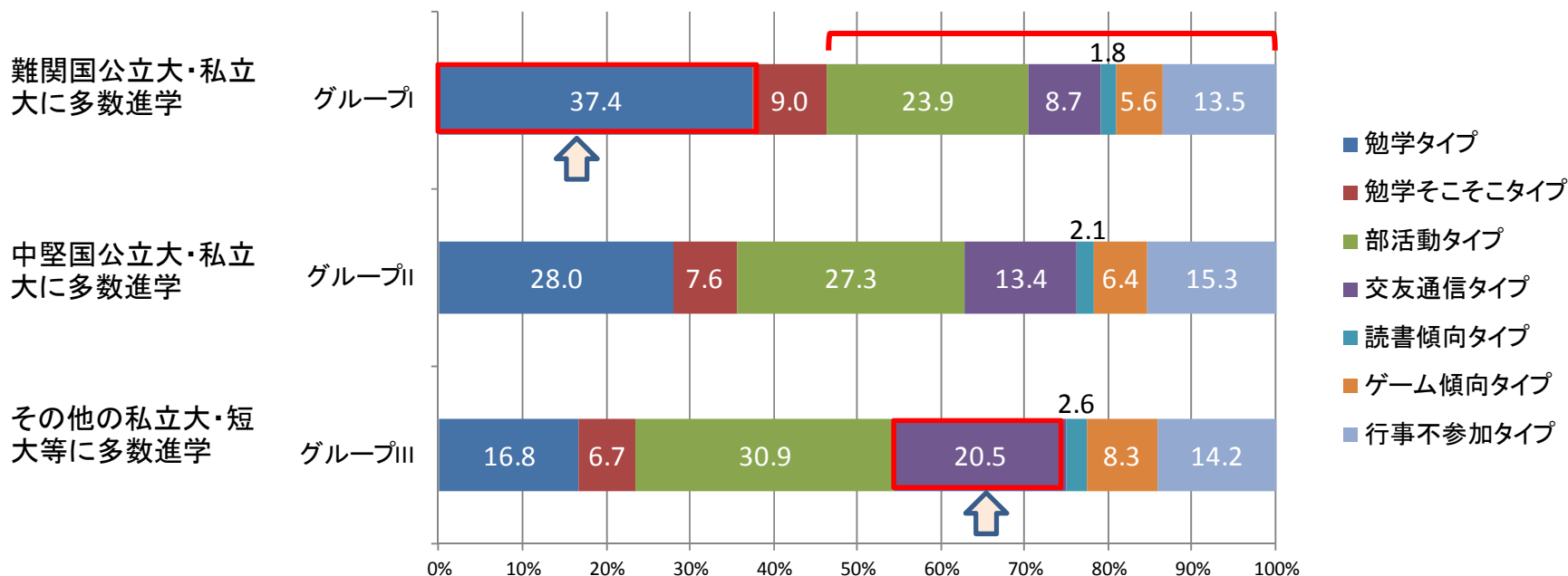
リーダーシップをとることができる

社会の問題に対して分析したり考えたりすることができる

計画や目標を立てて日々を過ごすことができる

- ◆ 両立タイプ1
- 両立タイプ3
- ▲ 両立タイプ7
- × 両立タイプ8
- ✱ 両立タイプ10
- 両立タイプ19
- + 両立タイプ21

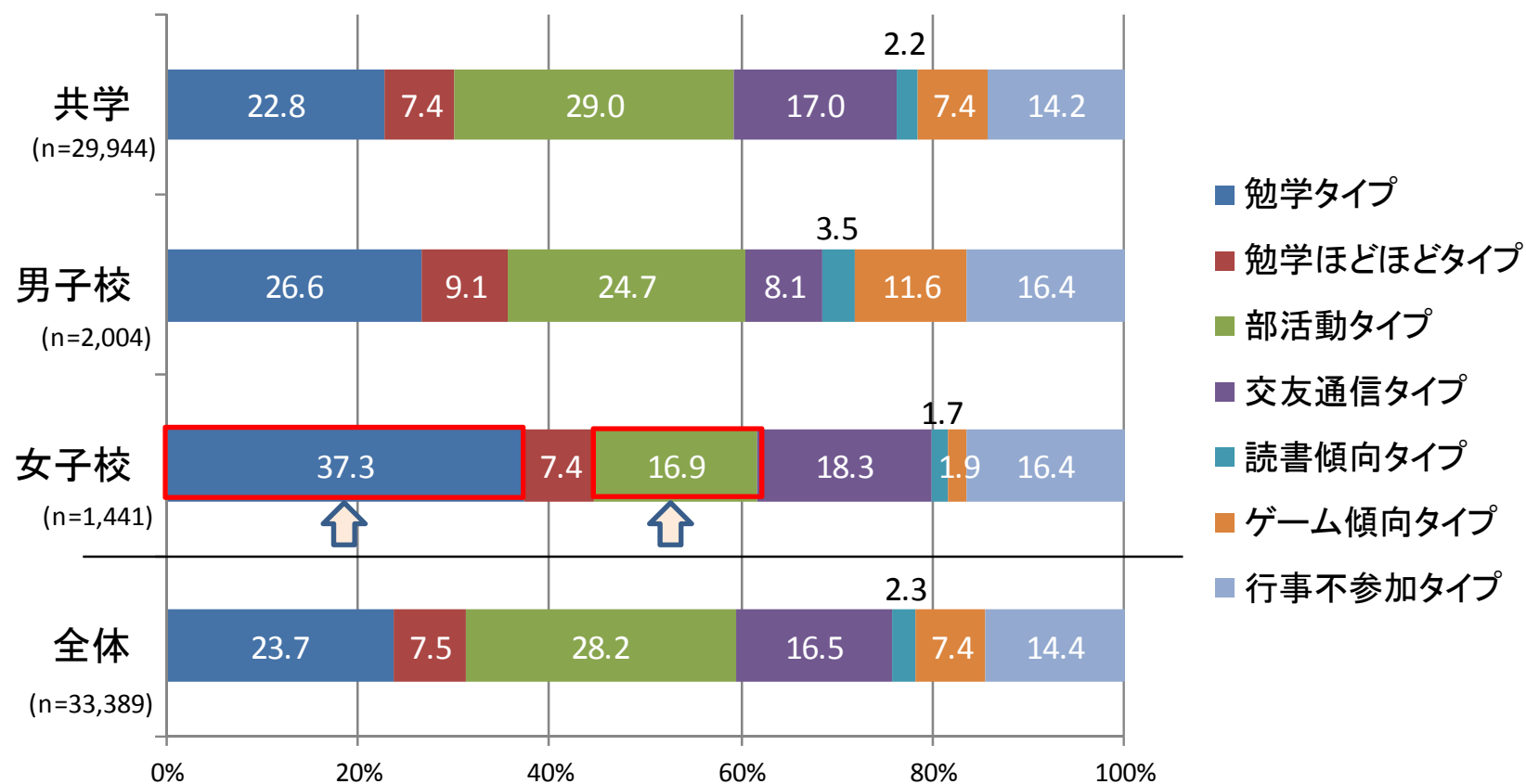
大学進学グループとの関連



「グループ分類は、河合塾の調査による」

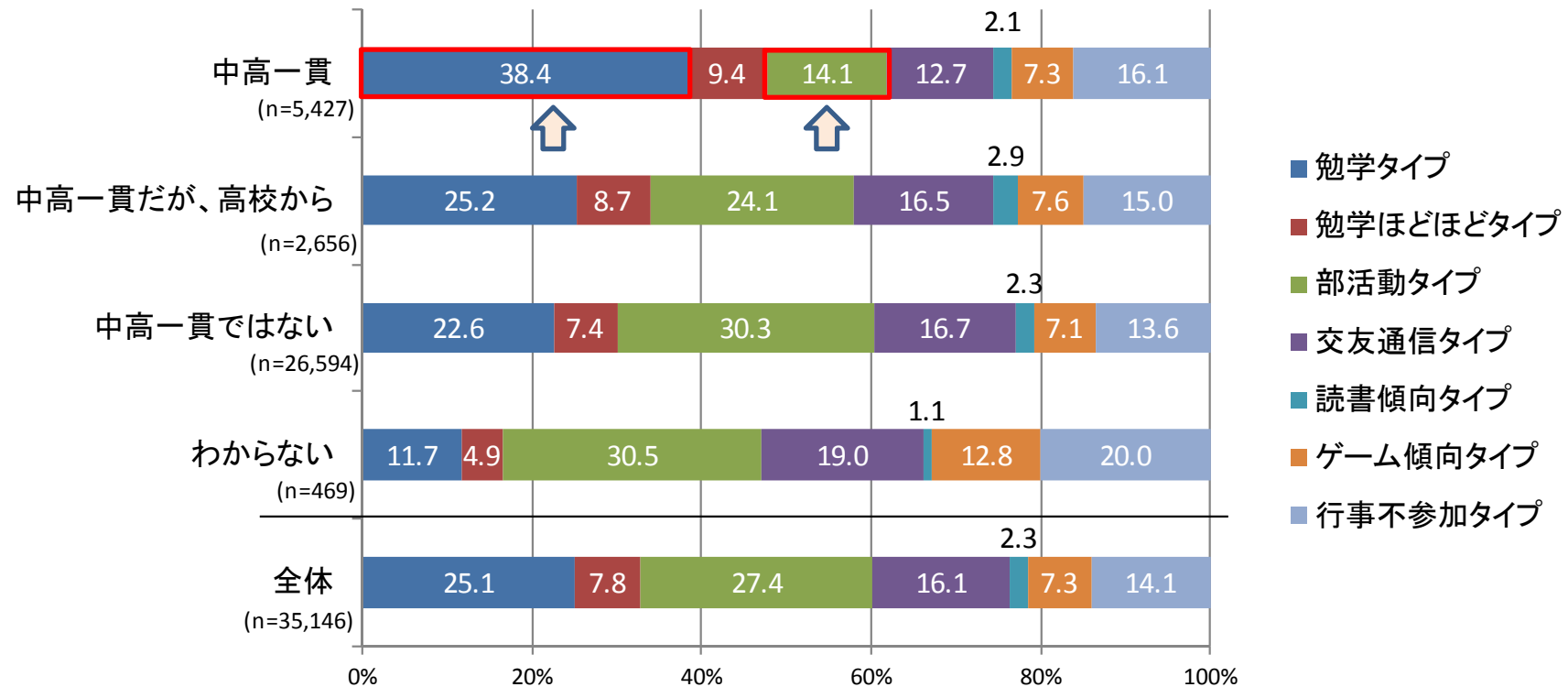
- ・難関大学への進学実績が高いグループで「勉学タイプ」が多く、進学実績が比較的高くないグループの2倍以上の割合を有する。他方で、「交友通信タイプ」は、進学実績が比較的高くないグループで多く、進学実績が高いグループの2倍以上の割合を有する。「行事不参加タイプ」は、進学実績に関係なく、どのグループにも10～15%はいる。
- ・グループ1でも、部活動タイプ～行事不参加タイプが過半数いる。彼らが受験勉強を短期間で仕上げ難関大学へ進学する場合、彼らの大学生になってからの技能・態度やキャリア意識は大丈夫か。

共学・男子校・女子校との関連



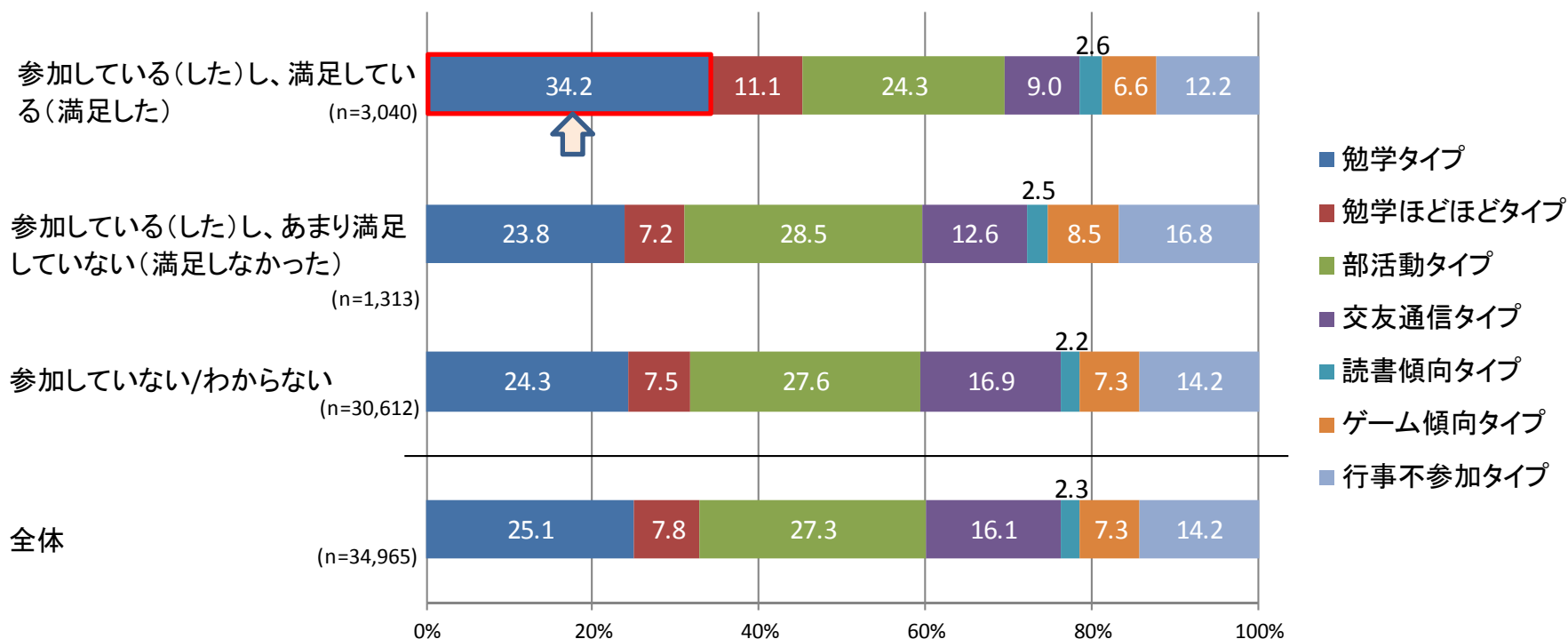
・女子校では、「勉学タイプ」が多く、「部活動タイプ」が少ない。

中高一貫との関連



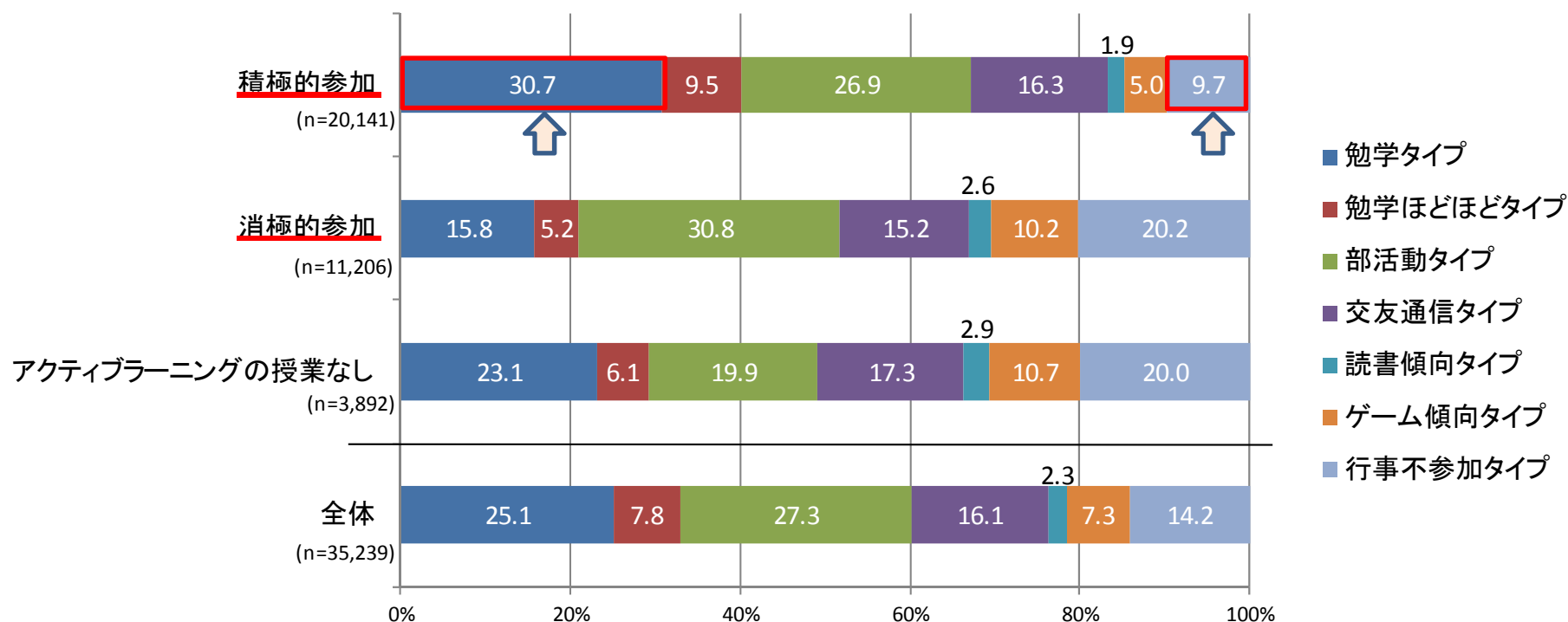
- ・中高一貫校では、「勉学タイプ」が多く、「部活動タイプ」が少ない。
- ・大学進学グループと女子校と同じ傾向を示している。しかし、「部活動タイプ」については、大学進学グループ1はやや多め。

SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の参加との関連



- ・SSH参加者(満足者)の「勉学タイプ」が多い。
- ・しかし、大学進学グループ、女子校、中高一貫の数値よりはやや低め。

アクティブラーニングとの関連



・積極的参加者の「勉学タイプ」が多く、「行事不参加タイプ」が少ない。

2

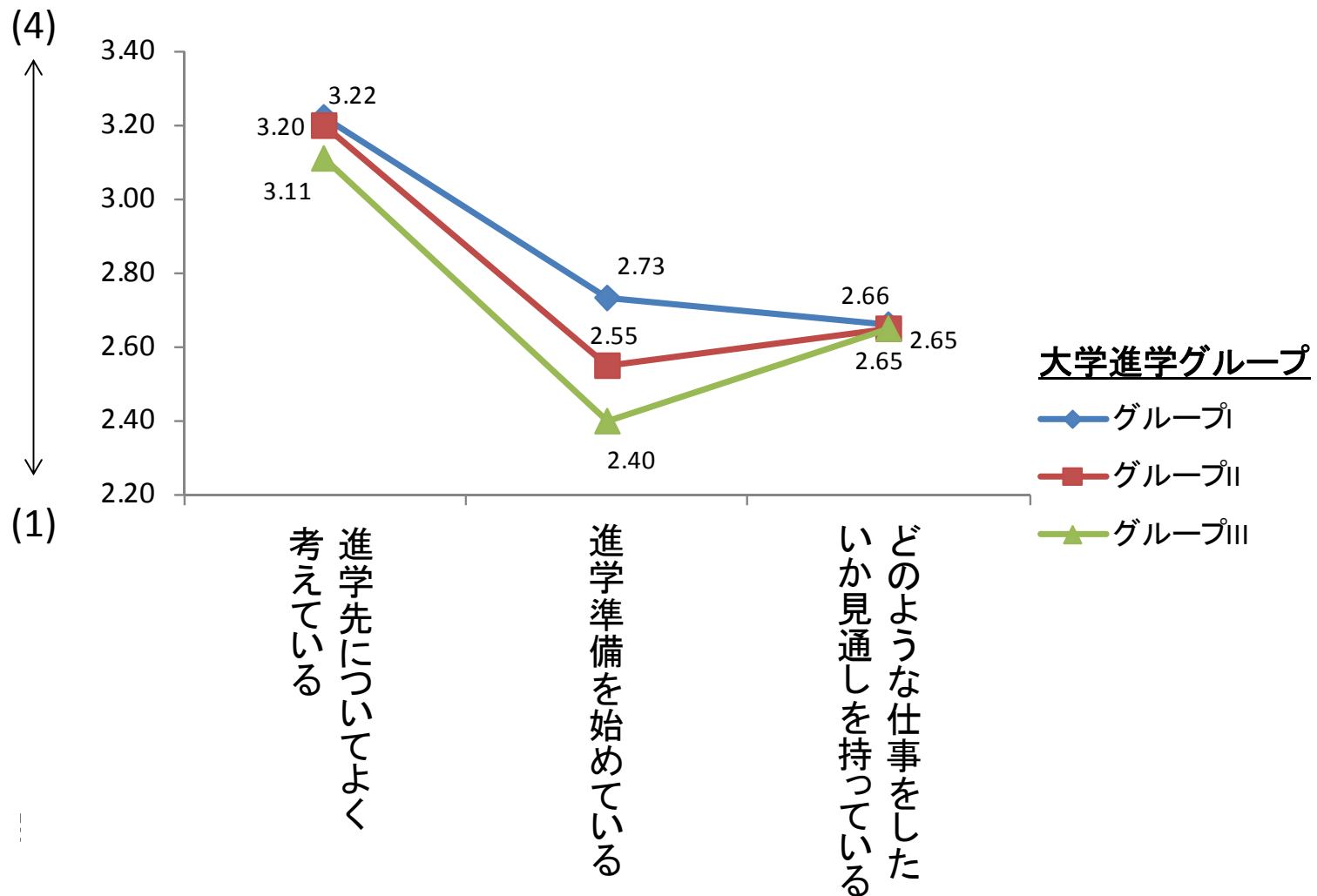
質問

*分析では、積極的参加(1 or 2)、消極的参加(3 or 4)、アクティブラーニングの授業なし(5)にまとめている。

授業におけるディスカッション(話し合い)・プレゼンテーション(発表)などに精いっぱい取り組んでいますか。

(1) 取り組んでいる (2) まあまあ取り組んでいる (3) あまり取り組んでいない (4) 取り組んでいない (5) そういう授業はない

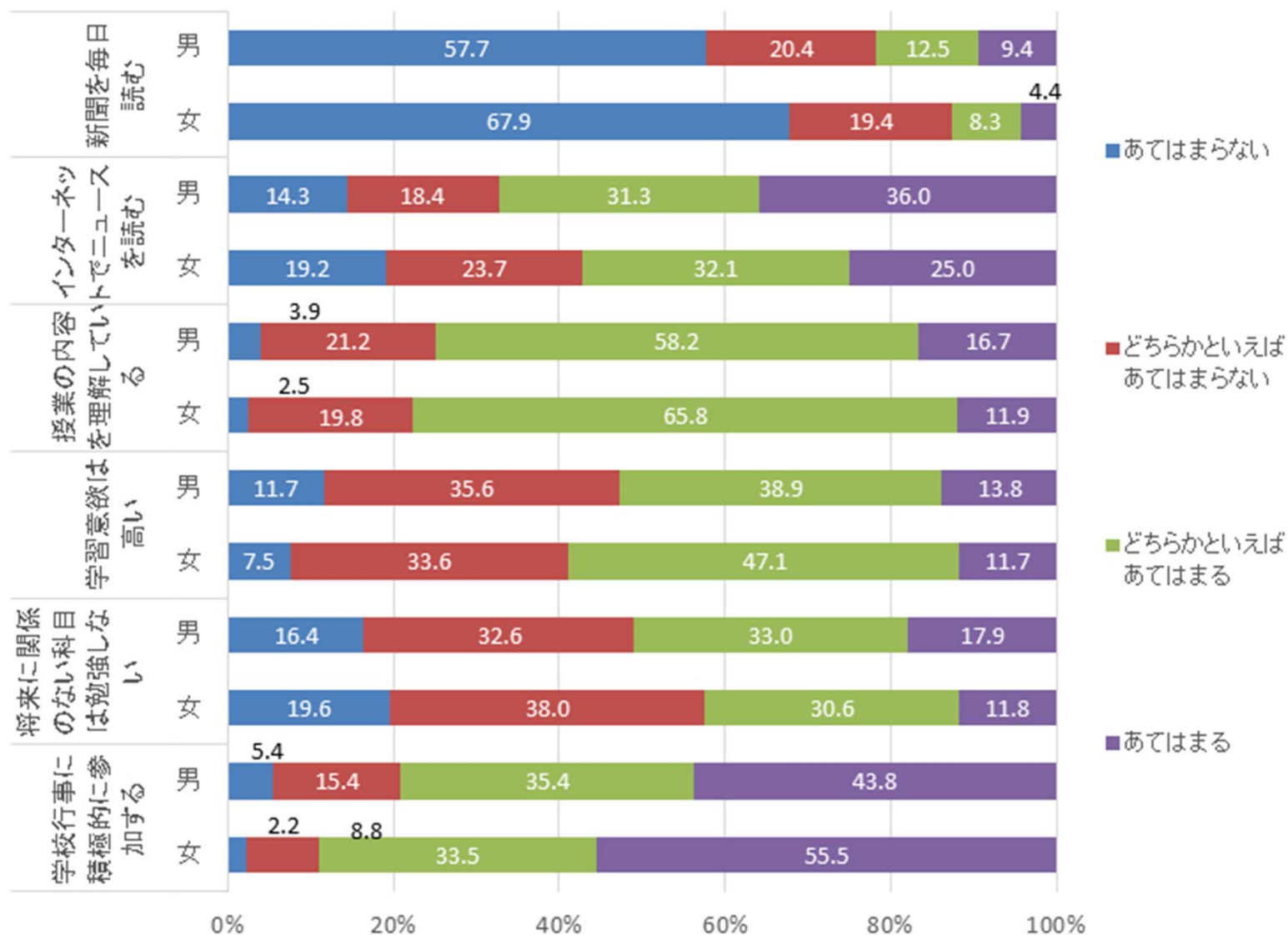
大学進学グループと進学準備・仕事の見通しとの関連



- ・大学進学グループIの「進学準備を始めている」で大きな差が見られる。
- ・仕事の見通しについてはまったく差がない。

ジェンダー差の分析

日常生活や勉強観の側面でジェンダー差が認められる



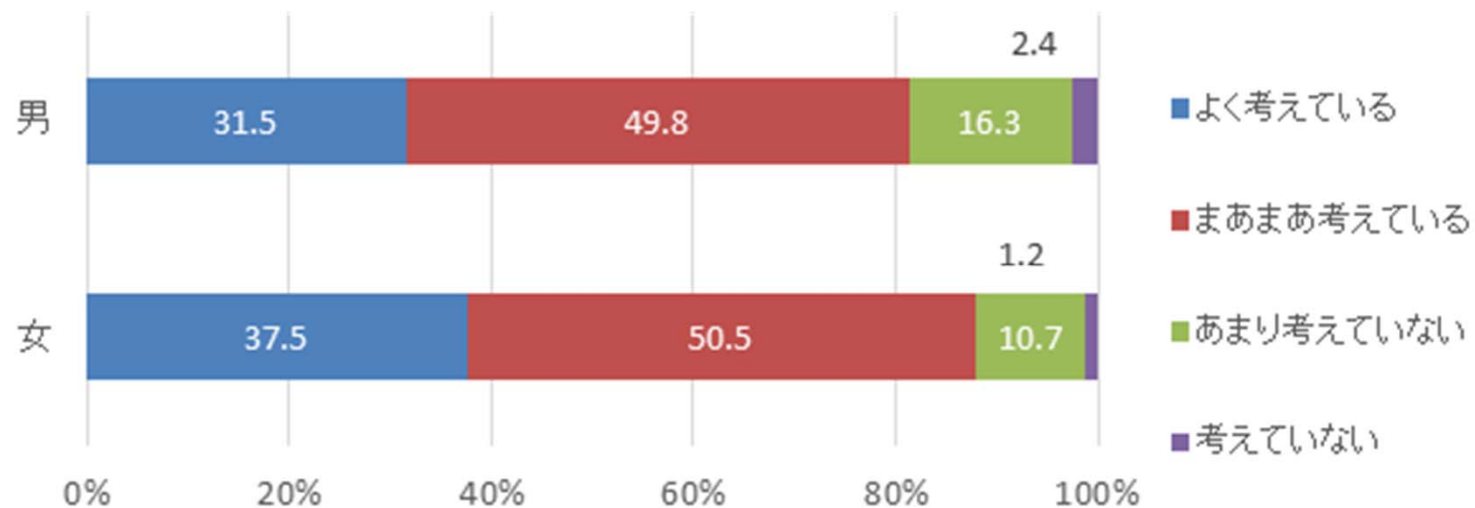


図 進学先についてどの程度考えているか

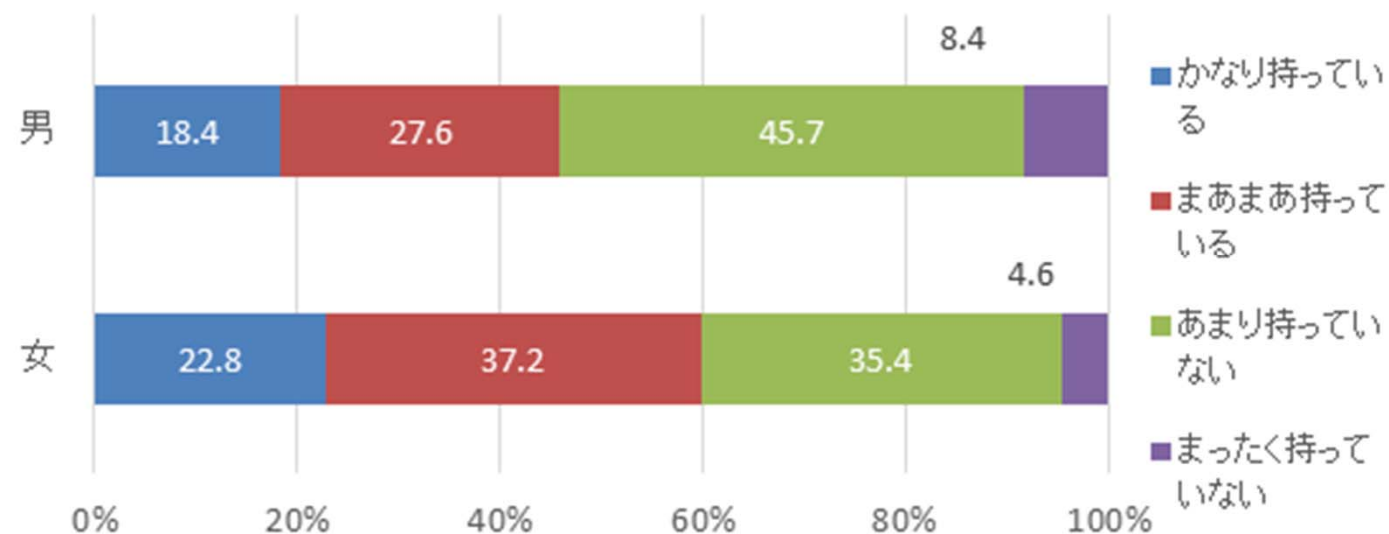
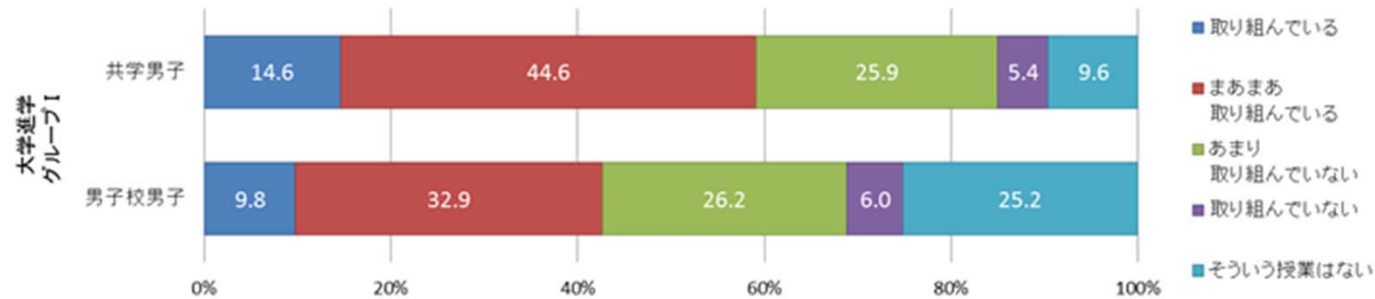


図 進学先卒業後の職業への見通し

共学に通う男女、別学に通う男女の間にさほどの差は見られない。ただし、進学レベルにおいては、とくに授業スタイルについて、共学・別学の違いが顕著に認められる。

男子



女子



図 話し合いや発表に積極的に取り組む

男子

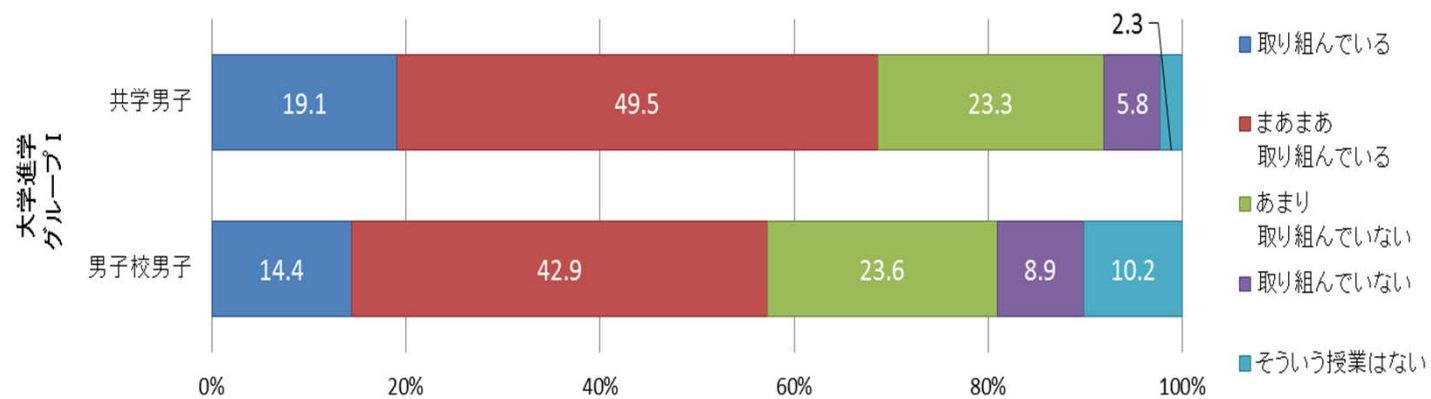
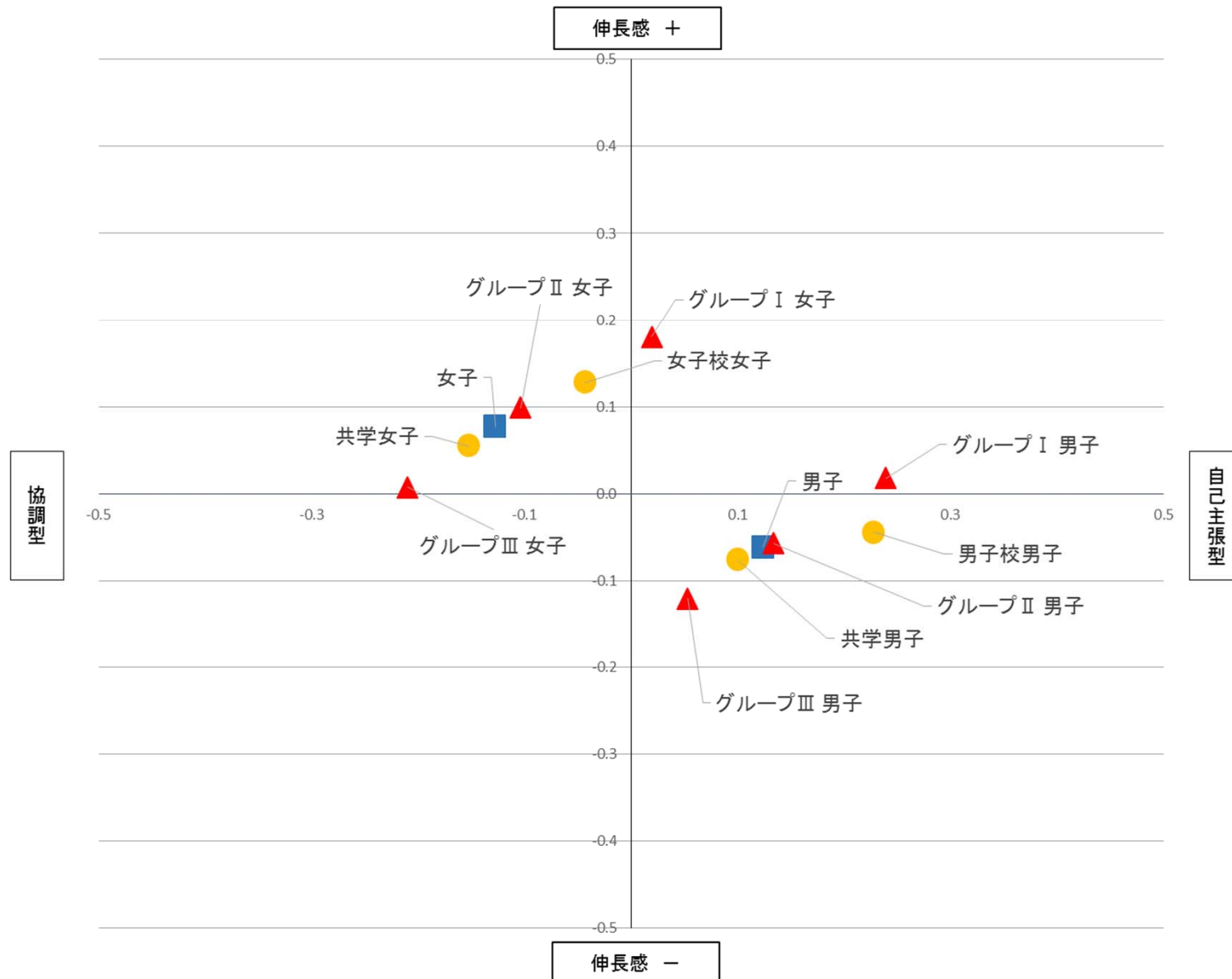


図 教科以外の学習に精一杯取り組む

技能・態度の伸長感は、ジェンダー・大学進学グループに影響を受ける



まとめ

◆高校生は、平日・休日の過ごし方、行事参加、対人関係、自尊感情、キャリア意識の特徴から、大きく7タイプに分類できる。

- (1)勉学タイプ (2)勉学ほどほどタイプ (3)部活動タイプ (4)交友通信タイプ
(5)読書傾向タイプ (6)ゲーム傾向タイプ (7)行事不参加タイプ

◆大学や社会で求められる汎用的能力(ジェネリックスキル)、将来への見通し(キャリア意識)の得点が高いのは、「勉学タイプ」「勉学そこそこタイプ」であった。勉学が密接に関連していることが明らかとなった。他方、「読書傾向タイプ」「ゲーム傾向タイプ」「行事不参加タイプ」は、技能・態度・キャリア意識の得点が低かった。「部活動タイプ」のキャリア意識も低かった。

◆技能・態度やキャリア意識につながる部活動との両立とは、「勉学タイプ」における部活動との両立であることがわかった。

◆難関大学への進学実績が高いグループでは「勉学タイプ」が多く、進学実績が比較的高くないグループでは「交友通信タイプ」が多かった。「行事不参加タイプ」は、大学進学状況に関係なく、どの学校にも10～15%はいることがわかった。

◆2時点目(大学1年生、2015年実施予定)の分析仮説:

・勉学タイプ、勉学と部活動両立の観点が、大学生の力強い学びと成長に果たしてつながるのか。

・難関大学への進学実績が高い高校の勉学タイプ以外の生徒が、受験勉強を短期間で仕上げ難関大学へ進学する場合、彼らの大学生になってからの技能・態度やキャリア意識はどのようになっているのか。

◆ジェンダー差について、日常生活や勉強観の側面で、ジェンダー差が認められる（新聞やニュースを読むは男子生徒で良好で、多く、学習面や学校行事、キャリア意識では女子が良好である）。

◆技能・態度の伸長感は、ジェンダー・大学進学グループに影響を受ける。